

当月の県内業界の景況 DI 値は、前月と変わらず、-30.8 ポイントとなった。全国においては、前月より 2.2 ポイント上昇し、-26.3 ポイントとなった。

-概 況-

12月の前年同月比DI値は図表2のとおり前月と比べ5指標が上昇し、3指標が低下した。主要3指標では「売上高」は13.5ポイント上昇、「収益状況」で1.9ポイント上昇し、「業界の景況」は前月と変わらなかった。

製造業のうち「縫製業」では、訪日外国人の減少を背景に継続商品の受注数量が落ち込み、売上高の低下に加え、日中関係の影響もあり先行きは不透明な状況である。受注数量の確保に向け、価格面での対応を含めた他の取引先への働きかけも検討している。「石灰製造業」では、鉄鋼向け及び建材関係が前年と比較して増加した。肥料関係は前年並みであったが、鳥インフルエンザ対策としての消石灰の出荷もあり、全体では前年を上回った。

非製造業のうち「旅館・ホテル業」では、宿泊は比較的高い稼働状況が続いたものの、原材料費や物価の上昇が宴会需要に影響を及ぼしている。忘年会の利用についても物価高を背景に想定程伸びず、利用控えの動きが見られた。

「貨物自動車運送業」では、物流が集中する年末年始に9連休となる企業もあり輸送量が増加した。ドライバーの疲れが溜まりやすい時期でもあり、安全対策の重要性が普段以上に高まった。また、雪への対応として冬用タイヤへの交換が必要となり、関連経費が増加した。

当月は、個人消費の増加や年末需要の高まりを背景に、比較的多くの業種で売上高が増加傾向となった。今後については、ガソリン暫定税率の廃止により配送コストの低下が期待されるものの、原材料費や人件費等の上昇は依然として続いている。仕入価格の下落が進まず、コスト増加分の価格転嫁は進展しにくいとの声も寄せられており、景況感は総じて一進一退の状況にある。また、依然として、人手不足の深刻化による経営への悪影響が懸念されている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-25.0	-25.0	75.0	-25.0	-50.0	-25.0	-25.0	25.0	-50.0
繊維・同製品	0.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0
木材・木製品	-50.0	0.0	-25.0	-25.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-75.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	0.0	25.0	75.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	25.0	-25.0
鉄鋼・金属	0.0	-50.0	0.0	-25.0	-50.0	-25.0	-25.0	0.0	-50.0
一般機器	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	-25.0	-25.0
製造業	-12.0	-4.0	28.0	-12.0	-32.0	-16.0	-16.0	-4.0	-44.0
卸売業	0.0	33.3	0.0	0.0	-33.3	-33.3		-33.3	-33.3
小売業	-14.3	-14.3	0.0	-28.6	-57.1	-28.6		14.3	-28.6
サービス業	50.0		50.0	-33.3	-50.0	-33.3		16.7	0.0
建設業	-40.0		20.0	-40.0	-40.0	-20.0		-40.0	-40.0
運輸業	25.0		0.0	0.0	-25.0	-25.0		0.0	0.0
その他	50.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	7.4	0.0	18.5	-22.2	-40.7	-25.9		-3.7	-18.5
全体	-1.9	-2.9	23.1	-17.3	-36.5	-21.2	-16.0	-3.8	-30.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	6年 12月	7年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月比
売上高	-11.5	-21.2	-7.7	-13.5	-5.8	-25.0	-15.4	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	-15.4	-1.9	13.5
在庫数量	-5.7	-14.3	-2.9	-2.9	-2.9	-11.4	0.0	-2.9	-5.7	-8.6	-5.7	2.9	-2.9	-5.7
販売価格	15.4	19.2	17.3	30.8	23.1	30.8	25.0	28.8	19.2	25.0	23.1	26.9	23.1	-3.8
取引条件	-9.6	-11.5	-17.3	-15.4	-11.5	-21.2	-23.1	-17.3	-25.0	-21.2	-21.2	-19.2	-17.3	1.9
収益状況	-25.0	-26.9	-28.8	-32.7	-23.1	-28.8	-25.0	-28.8	-34.6	-30.8	-32.7	-38.5	-36.5	1.9
資金繰り	-19.2	-11.5	-15.4	-15.4	-15.4	-21.2	-13.5	-13.5	-19.2	-19.2	-23.1	-26.9	-21.2	5.8
設備操業度	-16.0	-4.0	-12.0	-16.0	-20.0	-24.0	-12.0	-20.0	-16.0	-24.0	-24.0	-8.0	-16.0	-8.0
雇用人員	-9.6	-7.7	-1.9	-11.5	-1.9	-5.8	-7.7	-5.8	-9.6	-13.5	-11.5	-9.6	-3.8	5.8
業界の景況	-36.5	-34.6	-42.3	-38.5	-38.5	-40.4	-26.9	-28.8	-38.5	-36.5	-34.6	-30.8	-30.8	0.0

特記事項

情報連絡員報告（令和7年12月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合等及び組合員の業況等 （景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	物価の上昇はこのところ常態化しており、特に年末年始に向けて、餅米の値上がりが大きく厳しい。また、クリスマス商戦においても原材料アップがあり対応に苦慮している。
	めん類製造業	観光地では、中国の政策の影響でインバウンドが減少し、売上は良くなかった。年越しそばの食品スーパー向けについては、例年通りの生産及び出荷があった様子。また、宇都宮駅東地区においてはLRT効果もあり、外食の店舗が急増中である。但し、地域外からの得意先への安売り攻勢があり製造コストアップの状況でも値上げに二の足を踏んで躊躇している。年末のアルバイトの集まりは良かった。また、昨年あたりから、色々なM&Aの仲介会社から一部上場の大会社のグループ会社化の話が沢山舞い込んできている。仲間の経営者の高齢化が進み、実働者の育成の成否と、経営管理や開発担当者の採用の成否で、M&Aの事業継承を真剣に考えている。他に「そば」をメインにしている仲間からは、気候変動及び夏の高温化でそば栽培の農家では収量はあるが品質の低下が一番の問題となっている。その為、全国から品質の良い原料そばを集めている。品質低下により美味しくないそば製品にならないように努力している。今後も、製造コストアップ、原料確保、人材確保及び価格見直しの課題が残っている。
繊維工業	縫製業	訪日外国人の減少を背景に継続商品の受注数量が落ち込み、売上高も低下している。今般の日中問題もあり先行きが不透明な状況である。他の取引先への積極的なアプローチなど受注生産数の確保が重要と考えている。新年早々、大事な状況になっている。非常に厳しい不安定な状況が続いている。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	年末にかけて多少の受注生産の動きあり。服飾資材をあまり使用しないアパレルブランドが多い中、好調なブランドからの引き合いは頼もしい限りである。価格面においては依然として厳しい交渉が続くと思うが、元気で前向きな事業所とのやり取りから活路を見出していきたい。
木材・木製品	一般製材業	建築基準法（4号特例縮小）改正が本年4月にあったが、当該申請確認作業は正常化をしてきた。しかし新規戸建住宅は依然として勢いが低迷している。今後の市況に注力していきたい。
	家具・建具製造業	各項目は業界の景況を除くと総じて「不変」とする事業所が多数であるが、売上高を「減少」、収益状況を「悪化」とする企業が散見される。業界の景況は依然として悪化とする企業が多数を占めている。
	木材・木製品製造業	住宅関係の木材、建材の売上は引き続き減少した。前年同月の売上が大きかったこともあり、売上高は大幅に低下した。新築住宅向けの加工は競争が激化している印象である。一方、梱包向け納材は引き続き順調に推移している。前年同月比20%以上の売上高の増加となった。
印刷	印刷業	チラシ等の年末需要は、本年度も減り続けている。このような中、用紙の値上げは続いており、価格転嫁により更なる需要減が懸念される。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向け及び建材関係は、前年と比較して増加した。肥料関係は、昨年と同等であったが、鳥インフルエンザ対策として消石灰の出荷があった。全体では、前年と比較して増加した。
	窯業・土石製品製造業	年末から年始にかけて観光客の入りは良くなっている。組合員の設備操業度は陶器市も終わり低迷している。年末年始休暇も長いためこれから忙しくなるのではないかと予想している。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車部品は全体に減産傾向が続いている。金型関連では、新規見積もりの期待をしたが、年末から先送りになった。賞与を出せる状況ではないが無理をしても支給した。苦渋の決断である。年末に向けて活気のない仕事量である。高市新政権は高い支持率だが地方経済は真冬の不況と言えるのではないかと。物価高騰に米の価格も下がらず、更に金利の上昇と厳しい年末である。忘年会では社員の参加希望が少ないため、中止にした。前年度対比では減収減益と悪化している。
	金属製品製造業	売上高は家電が約25%アップしたため、増加した。
	金属製品製造業	主な問題点は、仕入価格の上昇、人材不足及び人件費等経費の増加である。
一般機器	一般機械器具製造業	全体としては各項目とも前月と比べ「不変」とする回答が多かったが、売上高の上昇や収益状況が好転した組合員も見られた。1年間を通しての経済環境については、横ばいで大きな変化を感じていない回答が多かった。「強い経済」

		<p>を掲げる高市内閣については中小製造業への影響として、製造業の国内回帰や産業基盤の強化、設備投資及び技術開発への支援拡充、人材確保環境の改善への期待が多い。その中で最も優先すべき政策は、中小零細企業への直接的及び継続的支援、エネルギーや原材料価格対策との声が聴かれた。</p>
	一般機械器具製造業	<p>先月に比べ、若干景気が落ちてきたように感じる。そのためか忙しさがなくなってきたように思う。</p>
卸売業	化粧品卸売業	<p>年末の押し込みで若干在庫が増えた。それでも昔に比べれば年末の押し込みもかなり減ったように感じる。また、お歳暮もかなり減ったように感じる。</p>
	各種商品卸売業	<p>当団地組合では、売上高は「減少」とする企業が若干多かった。業況等は前年同期に比べ微減とする企業もあるが、「不変」とする企業が上回った。</p>
	各種商品卸売業	<p>業種及び取扱商品によって流通量の増減に差がある。燃料価格は暫定税率廃止の決定により、以前より落ち着くと思われるが物価高騰により仕入コストも上昇しているため、厳しい状態が続いている。従業員の人員確保が難しい（募集をかけても集まりにくい）。賃金アップについても対応していく中で、原資の確保の他、労働時間問題についても検討していかなければならないため、課題も多い。</p>
小売業	食肉小売業	<p>歳末の需要に向け、仕入値が上がっている。販売は好調でも利益が出ない。</p>
	その他の小売業	<p>ガスの卸価格は減少傾向にあったが、この先の為替等により上昇の兆しがある。現在、燃料系の最需要期に入ってきている中で卸価格が上昇すれば、下落気味で販売価格を下げていた場合、販売価格を卸価格に合わせた改定をするまでの間、収益圧迫を起こすこととなる。市場の動きを今後注視していきたい。また、暫定税率廃止により、配送コストが下がることを期待していたが、物価上昇や人員確保の観点から、人件費が上昇しているようで、直ちには反映されていないのが現状である。</p>
	各種商品小売業	<p>12月には新店舗のオープンにより館内の話題性が高まり、集客及び売上ともに押し上げ効果が見られた。年末商戦の時期とも重なり、既存テナントにおいても一定の相乗効果が生まれ、月間売上は前年実績を上回る結果となった。一方で、物価高の影響による消費者の節約志向は引き続き見られ、全体は依然として慎重な購買行動が続いている。今後は新店舗効果を一過性のものとせず、館内回遊や再来店に繋げていくことが課題となる。</p>
	花・植木小売業	<p>年末の仕入価格は少し安定していた。店売りに期待していたが、前年度とほぼ同じ、或いは下回った。葬儀については、家族葬形態や参列者が限られるものが多く、供花の受注にも影響があった。</p>
サービス業	理容業	<p>年末の繁忙期でもあり来店客がいつもより多く、収益に関しては、前月よりアップしているサロンが多くみられる。各支部で、新規技術のメニュー化にも力を入れ始めたサロンもあり、顧客集客に取り組んでいる。特に、女性客の獲得に力を入れている。</p>
	自動車整備業	<p>季節的需要による売上高増加が見られた。</p>
	旅館・ホテル	<p>12月も宿泊は比較的高稼働だった。原材料高と物価高がホテルでの宴会に良くない影響を与えている。12月の忘年会も利用状況が予測ほどではなかった。物価高による利用控えの影響が飲食店には出ているように感じる。原材料の高騰による影響が非常に大きい。</p>
	廃棄物処理業	<p>栃木県浄化槽協会との協賛事業として「浄化槽技術講習会」の開催を決定した。「ウォーターPPP（民間連携による上下水道事業の新たな展開）」についての勉強会を実施した。第1回「積算マニュアル委員会」を開催した。</p>
	職別工事業	<p>人手不足の状況は依然続いており、今月においては工事受注の減少により対前年同月比約85%の売上高に留まる。</p>
運輸業	貨物自動車運送業	<p>物流が集中する年末年始では、9連休となる企業もあり輸送量が増加した。ドライバーの疲れが溜まりやすい時期でもあり、安全対策が常より重要な時期であった。また、雪に対する輸送の安全確保なども重要な対策となり冬用タイヤへの履き替えによる経費が増えた。</p>
	貨物軽自動車運送業	<p>月を通して、例年通りの忙しさがあった。精密機械、建築資材及び食品等において非常に良い荷動きだった。25日から31日までは年内に引越しをするお客様も多数おり、新人組合員にとっても実りのある年末だった。</p>
	一般旅客自動車運送業	<p>時期的に忘年会シーズンで特に週末の売上が好調。令和6年12月あたりからコロナ渦以前の頃の賑わいに戻り、宇都宮市内の夜間などは市がオリオン通りの活性化に力を入れたのが結果として表れてきている。街が熟成されていく過程</p>

		において若い力がマイナスに働く時期もあったが、試行錯誤を重ねる中で皆が安心して集まれるオリオン通りになってきた。深夜までの照明アーケードは悪天候時などのメリットもある。場所と形によりアーケードの役割も違い、もう少しうまく周辺に分散できると全体がもっと大きくなる。この辺の計画が課題かなと感じる。
その他の非製造業	大谷石採取業	組合員の業況は変わらない。観光的な要素として「大谷グランドセンター」のオープンが1月初旬という事もあり、期待しているところである。